

2009年度

科目名	メディア文化論		
担当教員	池谷 洋二		
配当	人社3	コード	54600
開期	後期	講時	金曜日4限
		単位数	2
授業テーマ	メディアの歴史・現状を把握、理解し、情報の読み解き方、活用方法を学ぶことによって、社会観の形成に役立てる。		
目的と概要	ITの出現によって、メディアの世界は大きな転換期を迎えた。情報が大量にあふれ、垂れ流されていく中で、自分に役立つ情報を主体的に取捨していく術を一緒に考えていきたい。毎回のテーマとは別に、随時日々のニュースを取り上げ、メディアを理解するうえでの生きた教材とする。また、私が現役の新聞記者であることから、体験談を通じてメディアへの関心を一層深めてもらう。		
成績評価法	授業での発言やレポートなどを総合的に評価する。		
テキスト	特になし。		
参考書	特になし。適宜資料を配布し、参考文献を提示する。		
履修に当たっての注意・助言	授業は、教師と学生がともに考え、学んでいく場。積極的な発言を期待する。		
講義計画			
第1回 概論 —— 授業の進め方。メディアとは仲介者。多数意見は正しい？ 第2回 メディアの変遷 —— メディアの歴史から社会が見える。マスからパーソナルへ 第3回 情報と社会 —— マスメディアとミニメディア。生の情報が読者(視聴者)に届くまで 第4回 メディアの役割 —— 機能。表現の自由。メディアの社会的責任 第5回 戦争とメディア —— 言論統制下の新聞・放送・出版。報道の自由がなかったら 第6回 小論文指導 —— 情報処理の実践。就活にも役立つ小論文のツボ 第7回 スcoopと報道協定 —— なぜスcoopが必要か。報道協定の功罪 第8回 過熱報道 —— 画一報道の洪水。メディアスクラム。和歌山カレー事件は何をもたらしたか 第9回 メディアと人権 —— メディアはもともと人権と衝突する存在。人権報道の変遷 第10回 ニューメディア —— インターネットの登場がメディアを変えた。放送と通信の垣根 第11回 メディアの危機(1) —— 既存メディアの混迷。第四の権力への批判。市民のマスコミ離れ 第12回 メディアの危機(2) —— アメリカでは紙媒体は終わった？ 広告の分散。既存メディアに戦略はあるか 第13回 メディアの危機(3) —— ネットの落とし穴。「低度情報化」時代。集団分極化。ネットはジャーナリズムか 第14回 リテラシー —— 大量の情報といかに向き合うか 第15回 展望 —— メディアの明日。まとめ			